



「新しい世界知り、前へ」

「このメンバーで全中に行けたことがうれしかった」と口をそろえる3人。県大会は、佐沼中との準決勝が、全中行きを握っていた。市大会は僅差での勝利で、力の差がないことは分かっていた。先制して勢いに乗ろうと積極的に攻めに出た。先鋒佐藤が粘る相手を絞めで一本。中堅高橋は寝技、大将加藤は背負い投げで勝ち、その勢いで決勝を制し、全中行きを決めた。

全中では、予選で大成中(愛知県)、下妻中(茨城県)と対戦し2敗で敗退。個人63kg級に出場した高橋も寝技でポイントを取られ、1回戦敗退となった。加藤は「自分たちの柔道が通じず、思うような試合ができなかった。分かっていたつもりだが、上には上がいる。より努力しなければ、上位には行けないと痛感した」と唇をかんだ。

全国の舞台で、3人は新しい世界を知った。進路は未定だが、共に戦ったメンバーも、高校ではライバルかも知れない。新たなステージでの全国制覇を目標に、努力の日々は変わらない。

全国中学校柔道大会

柔道女子団体 米山中女子柔道部

(佐藤悠・高橋春香・加藤ほのか(全員3年))

女子個人63kg級 高橋春香



写真左から、安達、加藤(光)、千枝、加藤(拓)、伊藤、武川、北浦

夏に挑む Zoom Up Tome 2017 Special

「離れても心は一つ」

「最高のメンバーと出会えた」と話す4人。市内から、全中リレー出場は、初めての快挙だった。1年前から、フォームの改善や食事面での栄養管理など、全中に向けて準備してきた。このような取り組みが実を結び、4月ころからタイムが縮み、着実に成果が現れた。県大会はすべて標準記録を突破し、全中の切符を獲得した。県大会で、最初のピークを持ってきたため、東北大会では調子を落とす。全中までは試行錯誤を繰り返した。

千葉以外の3人は初の全中。期間中、自分たちのリズムをうまく作れなかった。自由形、メドレーともにタイムが伸びず予選敗退した。個人バタフライで決勝進出を目指していた千葉は、前日からの腰に痛みにより、得意のアンダーウオータキックができずタイムは自己ベストから大きく遅れた。リレーリーダーの富士原は「このメンバーで勝ちたかった。小学生から一緒に水泳をしてきて、良いところも悪いところも全部知っている。今後はそれぞれのステージで全国を目指す」。



全国中学校水泳競技大会

男子400m自由形リレー・同メドレーリレー

佐沼中水泳部(富士原雅仁(3年)・渡邊偉月(3年)・石川太地(2年)・千葉悠正(3年)・佐々木凌雅(3年)・富士原和仁(1年))

男子100mバタフライ 千葉悠正

全日本少年少女空手道選手権大会

組手の部

少5男子 北浦心太(菊田道場、加賀野小)

伊藤大翔(菊田道場、登米小)

小6男子 安達陸人(はさま、佐沼小)

小6女子 加藤光(はさま、中津山小)

武川裕奈(はさま、佐沼小)

「負けは明日の勝利の薬」

和道会全国空手道競技大会

組手の部

中学男子3位 加藤拓巳(はさま、米山中3年)

中学男子5位 千枝 紘(はさま、佐沼中1年)

市内にある和道流の道場は、和道会はさまと和道会菊田道場の2つ。はさまは、約30年前、菊田道場は7年前から活動している。全国の強豪として名高い2つの道場は、今年も大量7人の若き空手家を全国に送り込んだ。

全日本少年少女空手道選手権大会は8月5日、東京武道館で開かれた。

小5男子の北浦と伊藤は、共に初の全国。どちらも攻撃型で、北浦は蹴りを、伊藤は突きを得意としている。北浦は、開始直後から蹴りを繰り返すも、相手にうまく裁かれ、防戦一方の展開。気付けば0対6で敗れた。伊藤は、緊張から体が動かず、1対3で敗戦。共に涙をのんだが、来年同じ舞台でリベンジすることを誓った。

全日本空手道連盟和道会

国内1350支部、海外250支部、会員約185万人、有段者約18万人(1997年9月現在)を擁し、空手団体としては日本有数の規模を誇る。柔術(神道場心流)の影響が色濃い流派で「さばき」「流し」「押し」「引き」「入り身」「転身」などの技法が特徴。松濤館流、剛柔流、糸東流と並び、空手の4大流派の一つに数えられている。

攻撃が単調になったところを決められ失点。勝てる試合を落としてしまう。武川は、こちらからの攻撃を待っている相手に、焦って突っ込んでしまいい、カウンターで攻められ0対4で敗北。2人は、練習してきたことが実践できなかったことを悔やんだ。

和道会全国空手道競技大会は8月19、20の両日、日本武道館などで開かれた。

中学男子の千枝と加藤は、上位入賞が目標。千枝は、順当に4回戦まで勝ち上がったが、準々決勝で隙を付かれ判定負け。加藤は「みんなの分も自分が」と準決勝に臨んだ。序盤、相手を押し込んだが、攻撃に切れがなくなったところを攻められ3位に終わった。加藤は「負けはしたが、全力で臨んだ結果」と胸を張った。

和道流の空手家たちは「今日の負けは明日の勝利の薬」と、前を向き稽古を続ける。